

(第三種郵便物認可)

長野県代協

存在価値を未来志向で考える セミナーとパネルディスカッション開催

長野県代協(荒井英和会長)は11月26日、松本アルピコプラザホテル大会議室に約50名の会員を集めたセミナーとパネル



柏谷氏

ディスカッションを開催した。当日は荒井会長と教育委員会、総務広報委員会を中心となり、今の代理店経営において共通課題となっている世代交代、いわゆる事業承継について情報共有する三部構成のセミナーとして企画されたもの。喫緊のこの課題に目を背けることなく真正面から向き合わなくては

いけない時期になっていることから、最新の代理店事業承継の実例から紐解いたヒントをつかみ、保険代理店の存在価値を未来志向で考える構成で展開された。

冒頭に荒井会長から、県代協会員も世代交代を進めていかななくてはならないと同時に長年にわたる業界活動にも貢献してきた諸先輩への感謝と魂

を引き継ぐために今日のテーマを設定したことの背景説明と新組織の運営提案が行われた。

第一部は日本代協アドバイザーである株式会社柏谷企画の代表取締役柏谷氏が講師となり「代理店経営モデルの刷新と事業承継」のタイトルで、後継者不足や高齢化する中小企業経営者の共通の悩みでもある事業承継のあり方について代理店の実例を交えながら解説を行った。セミナー後半にはSDGsで代理店経営

をREデザインしていくイメージも紹介された。長野県は総務省のSDGs未来都市選定を昨年6月に受けており、持続可能な住み続けやすい街づくりに取り組む地方行政の方向性を見据える必要があるとし、地域密着を強みとする保険代理店が地方創生に関与し続けるために事業承継にどのような取り組みが、未来志向からのバックキャスト思考(逆算)が重要であるとのメッセージを送られた。

第二部は事業承継に取り組んだ3代理店(ワイエル株式会社赤羽豊喜会長、有限会社MGI保険代理店内堀敏高社長、有限会社いずみ保険事務所朝倉敏文社長)がパネリストとして登壇し、引き続き柏谷氏がコーディネーターとして事業承継前後の取り組みと後継者に託す思い、引き継いでいく想いなどについてディスカッションを展開した。

第三部は「昔の名前で出てきます」としてメンバーの交流の活性化を目的とした長野県代協シニア会の結成の趣旨と会則の説明があり、参加者全員が同意を得てクレバー保険企画株式会社の杉村浩平氏を会長とした同会の設立が決定された。

運営事務局の古瀬智恵美教育委員長からは、世代を超えた会員間交流の場を教育の目線からも運営ができ、過去にない参加者に来ていただき情報共有ができたことは、事業承継を自らも経験した中で有意義な時間だったとの感想が寄せられた。

的とした長野県代協シニア会の結成の趣旨と会則の説明があり、参加者全員が同意を得てクレバー保険企画株式会社の杉村浩平氏を会長とした同会の設立が決定された。

運営事務局の古瀬智恵美教育委員長からは、世代を超えた会員間交流の場を教育の目線からも運営ができ、過去にない参加者に来ていただき情報共有ができたことは、事業承継を自らも経験した中で有意義な時間だったとの感想が寄せられた。